

2022 年 4 月 18 日

2021 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 被災地 NGO 協働センター

代表者・役職名 氏名 代表 頼政良太

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

災害ボランティアについて知ろう講座

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

阪神・淡路大震災後に立ち上げられた阪神大震災地元 NGO 救援連絡会議の中の仮設住宅支援連絡会事務局が前身です。被災地支援活動を中心に、災害支援の活動を行なっています。会員数は、117 名(団体含む)です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

新型コロナウイルスによる感染症流行下では、災害が発生しても地域外から多くのボランティアが駆けつけることは難しいため、被災した地域の近隣からの応援が非常に重要になります。地域に暮らす人々に研修に参加してもらうことで、地域のボランティアの力を底上げしていくことが必要です。兵庫県内を中心に、近畿圏域の方に、災害時にすぐに役立つ知識・技術を持ってもらうことを目的としています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

全6回のプログラムによって、災害ボランティアセンターの対応から、技術系支援、ソフト的な支援、復興ボランティアまでを網羅することができる講座になっています。また、さらにステップアップをしたい方を対象とした番外編も設定しました。水害対応、屋根上対応については、模型を作成して実際の作業を見てもらうことで、より詳しく理解を深めていただくことができました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

講座は予定通り6回実施しました。リアルタイムでの参加が難しい方には動画配信を行い、延82名の参加者と延126回の動画視聴がありました。成果として、参加者の方のボランティアに対する理解の促進や知識の増加が挙げられます。また、参加者からは多様な講師陣によって行われたことで、普段聞けないような話も聞くことができよかったという感想もいただいています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回のプロジェクトでは、全てオンラインで実施したことで、兵庫県外の方にも多く参加していただくことが出来た一方で、十分に広報が行き届かず、身近な方々の参加が想定よりも少なかったことが課題として挙げられます。講座の内容は好評でしたので、今後についてはより身近な方へ講座を届けていきたいと考えています。

社会福祉法人 神戸市兵庫区社会福祉協議会
地域福祉ネットワーク
地域支援課長

神戸常盤大学 非常勤講師
日本ボランティアコーディネーター協会 理事
FMわいわい 理事
災害ボランティア活動プロジェクト会議 委員
神戸市教育委員会 学校防災アドバイザー



職業

社会

家庭

